

ひといちばい敏感な子どもに寄り添う居場所づくり事業

事業主体 名称：NPO 法人子ども達の環境を考えるひこうせん
住所：〒705-0001 備前市伊部 1 4 5 5

事業実施場所 岡山県生涯学習センター 2F 大研修室
ふれあい交流拠点「そらと森」

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

目的

1. 学校に行きにくい要因の一つとして、HSC の傾向も考えられる。不登校のお子さんの生きづらさを理解する上で重要なこのテーマについて、支援者がさらに学びを深め、心の回復を支えていく。
2. 不登校の子ども身近で寄り添われている支援者の方や、教師として携わっておられる方をゲストに招き、少人数で安心できる環境の中で気持ちを受けとめ合いながら、親同士や支援者との関係づくりをめざしていく。

概要・方法

1. ○不登校と HSC のお子さんについて考える講演会の開催
○募集方法
 - ・案内チラシの配布
 - ・フェイスブック、Instagram等SNSによる情報発信
2. ○不登校の子どもを持つ親の居場所「そらのいろ」の開催
 - ・第1回 ゲスト:北村 康代さん(仲間のいる不登校の親の会 ふわさば倉敷 代表)
 - ・第2回 ゲスト:野村 泰介さん(一般社団法人SGSG 理事長)
 - ・第3回 ゲスト:竹島 満里奈さん(通信制おおぞら高校 職員)
○募集方法
 - ・案内チラシの配布
 - ・講演会参加者に案内チラシの配布
 - ・備前市地域子育て支援拠点「わくわくる一む」「みついし子育てひろば」「西鶴山子育てひろば」を利用して下さっている方で、日頃から不登校について悩みを相談受けている保護者への声かけ
 - ・フェイスブック、Instagram等SNSによる情報発信

～事業実施内容～

<事業内容1>

- | | |
|-------|---------------------------------------|
| ①事業名 | 不登校の子どもに寄り添うためのHSC(支援者向け)の勉強会の開催 |
| ②参加人数 | 園や学校の先生方、教育関係者、子育て支援従事者、子育て中の保護者など60名 |
| ③日時 | R6年8月29日(木) 13:00～15:00 |
| ④場所 | 岡山県生涯学習センター 2F 大研修室 |
| ⑤内容 | テーマ:不登校の子どもへの理解とかかわり方 |

～ひといちばい敏感な子どもの心に寄り添う支援者・教育者をめざして～

講師：明橋 大二 氏（精神科医・一般社団法人 HAT 代表理事）



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

今年度は園や学校の先生、教育関係者、支援者が 60 名参加され、学校に行きにくい要因の一つである HSC の特性や生きづらさを理解し、不登校のお子さんのかかわり方などについて学び合うことができた。また、参加された方々が、自分たちの団体にも講師をお招きしたいと働きかけられ、次年度の研修会が決定するなどの動きが見られ、県内への波及効果があった。

◎参加者のアンケートより抜粋

- ・HSC という言葉、子ども達がいるということを知らなかったのも、大変勉強になりました。
- ・自分のクラスの不登校児にこの講演で学んだことが生かせればと思います。
- ・保護者から相談（不登校、HSC）された時に、一緒に考えていきたい。子どものこと、保護者の子育てを肯定的にとらえて、一緒に考えていけたらいいと思う。
- ・支援者も状況が変わらないことで焦りを感じてしまいがちですが、焦らず支援していくこと。小さな変化に気づいていきたいです。

<事業内容 2>

- ①事業名 不登校の子どもをもつ親の居場所「そらのいろ」の開催（第1回）
- ②参加人数 5名
- ③日時 R6年9月27日（金）13：30～15：30
- ④場所 ふれあい交流拠点「そらと森」
- ⑤内容 北村康代さん（仲間のいる不登校の親の会ふわさぽ倉敷代表）をお招きし、不登校の子どもを持つ親の座談会や情報交換



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

不登校の子どもをもつ親同士が、安心できる空間の中でお互いの気持ちを出し合えたり、受けとめ合うことができた。当事者でもあり早くから親の会を立ち上げられた北村さんに入って頂くことで、幅広い情報交換を行なうことができた。また、このような場と定期的な開催の必要性を感じた。

◎参加された方の感想

- ・その子、その子で色々なパターンがある中で、みなさんが頑張っているなあと思いました。備前市にも、もっとフリースクールなどの不登校の子どもと親の居場所ができたらいいなと思いました。
- ・子ども達に寄り添って、日々過ごされているみなさんと一緒にお話することができ、とてもありがた

かったです。待つことのしんどさもありますが、日々の楽しさも見つけつつ、子どもが動き出す時に、何をしたらよいか（親としてできること）の情報を集めたいと思います。

- ・たくさん来られていて、色々なお話ができてよかったです。先輩のお話も聞けて、先が見えた気がしました。

◎今後「そらのいろ」に希望すること

- ・みんなで気軽にお話しできる機会をつくって下さってありがとうございます。また利用させていただきたいです。
- ・また、定期的にしてもらえるといいです。皆さんが穏やかに過ごせているか、聞いてみたいです。

①事業名	不登校の子どもをもつ親の居場所「そらのいろ」の開催（第2回）
②参加人数	6名
③日時	R6年10月30日（水）13:30～15:30
④場所	ふれあい交流拠点「そらと森」
⑤内容	野村泰介さん（一般社団法人SGSG理事長）をお招きし、不登校の子どもを持つ親の話し合いや情報交換



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

小学校高学年～中・高校生の不登校の子どもをもつ親同士が、子どもの未来に対する不安な気持ちを話し、情報交換しながら現状に向き合う様子がみられた。また、中高生世代の子どもを対象に多様な学びやフリースクールを運営されている一般社団法人SGSG理事長野村泰介さんにゲストとして入っていただくことで、学校だけではない多様な居場所や通信制高校のことなどを知る機会となった。会の終わりに参加者の方々がライン交換をしてグループを作られ、今日つながった縁を継続したい思いが伝わってきた。

◎参加された方の感想

- ・今日はとても勉強になりました。色々な方々のお話を聞けて、自分だけじゃないんだと感じ、救われました。通信制高校のことも聞けて良かったです。子どもに、いろんな居場所があることも知れて、どれが子どもに合うかはわかりませんが、1つでも合って、行ってくれたら、元気に外に行けるようになるかなと前向きな気持ちになりました。皆さん、子どもを思う気持ちは同じだし、自分も元気に過ごせるように、いろんな方のお話を聞いてみたいと思いました。
- ・学校への行き辛さ、学校以外(放課後)の居場所、子どもたちにとって何があるとよいかという目線で考えて下さる野村先生のお話がきけてよかったです。今の学校の在り方など、新しい視点でのお話を聞けて希望が持てました。
- ・参加することにとっても勇気がいりましたが、思い切ってよかったと思っています。他の方の話を聞いて、励まされたり、聞いてもらって癒されたり。現実には自分で向き合うしかないのですが、ちょっとずつ前にすすみたいと思いました。

- ①事業名 不登校の子どもをもつ親の居場所「そらのいろ」の開催（第3回）
- ②参加人数 8名
- ③日時 R6年11月29日（金）13:30～15:30
- ④場所 ふれあい交流拠点「そらと森」
- ⑤内容 竹島満里奈さん（通信制おおぞら高校 職員）をお招きし、不登校の子どもを持つ親の話し合いや情報交換



⑥活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

2回目に参加された方が3回目の参加につながり、その後のご自身や子どもの変化や様子を伝え合っていた。またゲストの通信制おおぞら高校職員の竹島満里奈さんから、通信制高校の支援やサポートなど具体的な情報を得る機会になっていた。ゲストにとっても不登校の子どもをもつ保護者と話すことで家庭の子どもの様子や学校に望むことなどを知る機会となった。

◎参加された方の感想

- ・同じような境遇のお母さん達とお話しできて、分かってもらえることが本当にありがたかったです。うちはまだ不登校になって日も浅く、小さなことにまだまだこだわっているんだな…と思いました。我が子より少し先を行くお子さん達の話をお聞きできて、心の持ちよう、心構えができたように感じました。
- ・子どもに寄り添って伴走していきたいと思いました。ゆっくりとした時間の中で、みなさん勇気を出されて話を聞けたり話せたり、今日は特に共感できることが多く、嬉しかったです。
- ・同じ思いの方と一緒に空間でお話しできることがありがたいです。

◎今後「そらのいろ」に希望すること

- ・これからも、私のような親子さんに寄り添ってくださる、勇気をもらえる時間があると嬉しいです。ありがとうございました。
- ・「そらのいろ」また開催してほしいです。
- ・もっとこういうあったかい場が、どんどん増えていけばいいです。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

昨年度、備前県民局事業を活用させて頂き、不登校の悩みを抱える保護者・教育関係者・子育て支援者を対象にして不登校支援について考える講演会を開催したところ、告知早々、早い段階で定員に達するほどの関心の高さと、学校関係者・行政関係者・子育て支援関係者の方々が半数以上おられ、家庭だけでなく学校現場でも、支援者として不登校支援についてどのような声がけや関わり方、寄り添い方ができるのか悩まれている実態がみえてきた。

そのことを踏まえ、今年度は関心が高かった不登校のお子さんの生きづらさを理解する上で重要な「HSC（ひといちばい敏感なこども）」をキーワードに、主な対象者を子育て支援者や学校教育関係者に重点を置き、その方がたが参加しやすい夏休み中に同じ講師をお招きし講演会を開催した。アンケートの感想か

らもHSCについて学びを深めることにより、多様な感性をもつ子どもがいることを知り、思った以上に1人1人丁寧なかかわりが必要であることの大切さを学ばれた様子や、不登校の理解や対応を教員で共通理解したいという声を多数いただいた。今回参加された方々が自分たちの団体でも講師をお招きしたいと働きかけられ、次年度の学校保健会や岡山県教育委員会の研修会が決定したり、総社市の団体でも講演会を検討するなど、県内各地で不登校支援に取り組もうとする様子が見られ、波及効果を感じている。

また、昨年度、開催した不登校の子どもをもつ親の居場所「そらのいろ」でのニーズに対応して、今年度は3回開催し、より情報が得やすいようゲストをお迎えする形とした。昨年から引き続き参加して下さった保護者や、講演会や知人のつながりから参加して下さった方が集まり、少人数の守られた空間の中で、本当の気持ちを分かち合いながら話し合ったり、相談することが出来た。特にフリースクールや通信高校の仕組みや支援についての情報が得られる機会にもなった。会の終わりには参加者同士が自主的にラインの交換をしグループを作る様子があり、つながった縁を継続させようとする様子もみられた。

○今後の課題・展開

不登校の悩みを持つ保護者からは、親の会の継続を望む声が多数きかれた。同じ立場の保護者が出会い共感できる「親の居場所」の定期開催を検討するとともに、必要に応じでフリースクールや通信制高校などの情報が得られるよう専門的に活動している方をお招きするなど、具体的に考えていくことが重要となる。

また、不登校になった要因の一つとしてHSCの特性も関係しているケースもあることから。引き続きHSCについての学びを深め、広められるよう努めていきたい。

○まとめ

不登校の専門家である講師をお呼びして学校関係者・行政関係者・子育て支援関係者も参加しやすい日程で講演会を開催したことにより、不登校のお子さんに身近に接する関係者が不登校のお子さんやHSC（ひといちばい敏感な子ども）について学ぶことができ、ひとりひとりに合わせた配慮が必要であることや、当事者への理解や対応について学ぶことができた。また、不登校のお子さんを支援する具体的な方法や方向性を学んだり、学んだことを教員間でも共通理解しようとする動きなどが見られた。しかし学校現場やお子さんを取り巻く現状としてはまだまだ配慮が十分であるということは言い難いことも現状にある様子である。親の居場所についても、不登校のお子さんを持つ親の気持ちや悩み、現状について出し合える場となったが、不登校という性質から長期的な場の開催と支援が求められていると感じる。今後も当事業を通して、当事者の親子が安心して過ごし、改善に向けて情報交換できる場を提供していきたい。